

西濃農林事務所の普及活動状況（令和8年4月）

今月の重点活動

■指導農業士連絡協議会 第47回通常総会開催（4月23日）

クインテッサホテル大垣において、指導農業士連絡協議会西南濃支部の第47回総会が開催された。総会には会員他19名が出席し、事業報告や事業計画、役員改選、規約改正等について協議され、全ての議案が承認された。

令和7年度末で2名の指導農業士が退任するが、新たに2名の仲間が加わり、前年と同じ13名で活動を行っていく。

令和8年度事業計画では、新役員のもと青年農業士や大垣養老高等学校との交流を深めるなど、前年同様に活発な活動を行うことや、新たな会員募集を関係機関と連携し取り組むことを確認した。

農林事務所は、担い手育成、地域農業の活性化に向け、今後も指導農業士の活動を支援していく。



【総会での集合写真】

潜在力をフル活用した生産強化

■加工業務用タマネギ 関係機関と生育状況を確認（4月8日）

西濃管内における加工業務用タマネギの生育及び病虫害発生状況を確認するため、農林事務所はJAにしみのTAC室及び全農岐阜営農対策課とは場巡回を行った。

各ほ場の生育確認とともに、べと病などの病虫害や湿害の現状把握も併せて行い、被害が多いほ場の生産者には防除や今後の栽培管理を助言した。

農林事務所では、今後も生育経過を注視し、高品質なタマネギが安定供給できるよう支援していく。



【タマネギ生育状況確認の様子】

■花き 燃油高騰対策支援の取り組み（4月9～13日）

農林事務所では、燃油価格高騰の影響を受けにくい経営への転換を図るため、管内の花き生産者に対して、燃油高騰対策支援事業（施設園芸セーフティネット構築事業）の支援を行っている。

西濃管内では、4件の花き生産者が事業に取り組んでいる。4月は9～13日に各生産者へ巡回を行い、使用実績の聞き取りや証拠書類の事務処理を支援した。

今後、新規実施者の加入が見込まれており、農林事務所では現在支援している生産者とともに支援を行う。



【花きハウス重油タンク】

■甘長ピーマン 天敵による実証を開始（4月17日）

JAにしみの海津甘長部会では、例年4月から10月まで出荷が行われるが、6月以降、コナジラミ類の発生が多くなり、防除に苦慮する農家も多い。そこで、今年度は2戸の農家で、天敵（スワルスキーカブリダニ）を導入した試験を開始している。

4月15日には、天敵の導入に先立ち、農薬メーカー、JA全農岐阜の担当者では場を確認し、バンカーシートの組み立て方の実演と設置個所や設置数などの説明を行った。また、4月17日には、2戸の農家



【バンカーシートの設置状況】

でバンカーシートの設置が行われ、天敵が放飼された。

農林事務所では、天敵導入の提案や天敵導入前の農薬選択などの支援を行っており、今後はコナジラミ類の発生状況や天敵の定着状況を農薬メーカーなどと一緒に調査し、天敵導入の効果確認を行っていく。

■冬春トマト 海津トマト部会目揃え会を開催（4月17日）

J Aにしみの海津トマト部会は、目揃え会をJ Aにしみの海津集出荷センターにて開催した。当日は市場関係者から情勢報告、部会検査長から選果基準の説明がされた他、農林事務所から病害虫の発生に対して注意を呼び掛けた。これに対し、生産者は増量期の品質向上を目指し、真剣に話を聞いていた。

農林事務所は、品質の揃ったトマトが生産されるよう引き続き支援していく。



【目揃え会の様子】

新たな流通ルートの開拓、販路拡大

■カミツレ 大垣市薬草組合総会（4月9日）、大垣カミツレまつり（4月29日）

第43回大垣市薬草組合総会が、4月9日に日新地区センターで行われ、今年度の事業計画などを協議した。

大垣市のカミツレ生産は、減反政策に伴い43年前から始まっており、栽培の歴史は古い。生産されたカミツレは長野県の加工会社へ供給され入浴剤やハンドクリーム、ドリンク等の原料に使用されており、このうち入浴剤は大垣市のふるさと納税品に選ばれている。

4月29日には、(農)大垣南のカミツレほ場で、「大垣カミツレまつり」が開催され、カミツレの収穫体験やカミツレ商品の販売などが行われた。

農林事務所では、歴史ある大垣市のカミツレ栽培や産地の維持発展を支援していく。



【薬草組合の総会】

安心できる農畜水産業と農村の環境整備

■小麦 無人ヘリ防除事前打合せ会議（4月3日）

小麦の主産地である海津市では、小麦の赤かび病防除をラジコンヘリによる共同防除を中心に行っている。赤かび病が蔓延すると、小麦子実にかび毒が入り、製品価値がなくなるため、適期（開花期）に防除を行うことが重要である。

農林事務所では、管内の営農組織ごとに出穂期調査及び幼穂長調査に基づき開花期を予想した防除資料を提供し、適期防除を呼び掛けた。

長期予報では4月に多雨が予想されており、赤かび病の増加が懸念されるため、農林事務所では今後も現地巡回によるほ場観察や病害虫防除所と連携した防除指導を行っていく。



【小麦防除計画の検討の様子】